

(3) 大学院教育

大学院教育

- ・講義（特修科目）

学部に合わせて遠隔講義とするが、大学院は受講者数が少ないことに鑑み、感染対策を徹底したうえで対面での開講も可とするという基本方針であった。専任教員による講義は遠隔で開講されたものが多く見られた。非常勤講師による集中講義は、大半が遠隔で行われた。

- ・大学院生の研究活動（主要科目、研究指導科目：修士研究、博士研究）

感染対策を徹底し、また大学院生自身の入構の意思を確認したうえで継続実施された。

大学院入試

- ・推薦入試

令和2年6月の国内での感染状況は比較的落ち着いてはいたが、理学研究科推薦入試は面接による口頭試問ということもあり、遠隔での面接試験を行った。

- ・秋入試

令和2年7-8月の感染拡大の状況に鑑み、筆記試験、面接試験ともに遠隔で実施した。受験者数等を踏まえ、各専攻が工夫してオンラインによる試験を行った。

- ・春入試

令和3年1月後半以降、感染者数が減少傾向であったこと、また2月前半に行われた学部入試が対面で実施されたことなどを踏まえ、感染対策を徹底したうえで、通常通りの対面による筆記試験、面接試験を行った。

その他

- ・理学研究科新入生ガイダンス（令和2年4月1日）

新入生ガイダンスは従来およそ1時間の時間を取り、学位取得に向けたスケジュールや修学のための支援制度等について資料とスライドを用いて説明していたが、令和2年度は時間を約3分の1に短縮して行った。

- ・日本学生支援機構奨学金返還免除推薦候補者審査会（ヒアリング）

事前に審査委員会の中で実施方法（従来通りの対面とするか、遠隔で実施するか）を検討した。遠隔での実施の場合、評価に際してネットワーク環境等の公平性の問題が懸念されることもあり、対面で実施することとした。これに合わせ、会場を大教室に移し、感染対策を徹底したうえで従来通りの方法で開催された。発表者の待機教室を2つ設け、複数名の発表者が同時に同一教室に待機とならないなどの工夫を行った。

- ・大学院生海外発表支援

採択となった院生が参加を予定していた国際会議はすべて中止（延期）となった。